

## 2020年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年4月14日

上場会社名 株式会社ジー・スリーホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 3647 URL <https://www.g3holdings.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 笠原 弘和  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理課シニアマネージャー (氏名) 菊地 正幸 TEL 03-5781-2522  
 四半期報告書提出予定日 2020年4月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年8月期第2四半期の連結業績（2019年9月1日～2020年2月29日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年8月期第2四半期	635	△76.2	△228	—	△88	—	△112	—
2019年8月期第2四半期	2,673	112.2	△327	—	△419	—	△152	—

(注) 包括利益 2020年8月期第2四半期 △112百万円 (—%) 2019年8月期第2四半期 △152百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年8月期第2四半期	△7.71	—
2019年8月期第2四半期	△10.55	—

(注) 当社は、2019年3月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2019年8月期第2四半期の「1株当たり四半期純利益」は、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年8月期第2四半期	5,749	2,221	38.6
2019年8月期	5,937	1,960	33.0

(参考) 自己資本 2020年8月期第2四半期 2,221百万円 2019年8月期 1,960百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年8月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2020年8月期	—	0.00	—	—	—
2020年8月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2020年8月期の配当予想額につきましては、現時点では未定であります。

### 3. 2020年8月期の連結業績予想（2019年9月1日～2020年8月31日）

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期純利 益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,950	1.9	280	—	196	—	346	31.6	21.63

(注) 直近に公表されている業績からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年8月期2Q	17,860,720株	2019年8月期	15,993,720株
② 期末自己株式数	2020年8月期2Q	1,002,739株	2019年8月期	1,583,239株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年8月期2Q	14,638,342株	2019年8月期2Q	14,433,638株

(注) 当社は2019年3月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。2019年8月期2Qの期中平均株式数（四半期累計）は、当該株式併合が前連結会計年度の期首に行われたものと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年12月1日～2020年2月29日)におけるわが国経済は、輸出を中心に景気の弱さが続いており、消費税増税が発端と思われる2019年10月以降の消費マインドの落ち込み、原材料価格の高止まりや人件費及び物流費の上昇、天候不順や相次ぐ台風等の自然災害、世界的な通商問題や中国経済の先行き、英国のEU離脱、金融資本市場の変動により、依然として厳しい経営環境が続く中、新型コロナウイルス感染症の世界的拡散によりヒト・モノの往来が限定されることによって経済活動が停滞し、更に厳しさを増す状況が続いております。

このような事業環境の中、当第2四半期連結累計期間における連結業績につきましては、連結売上高は635百万円(前年同四半期比76.2%減)と減収となりました。しかし、株式会社S B Y(以下、「S B Y」という)及び株式会社Green Micro Factory(以下、「GMF」という)の譲渡、固定費の圧縮などを進めた結果、連結営業損失は228百万円(前年同四半期は連結営業損失327百万円)、連結経常損失は88百万円(前年同四半期は連結経常損失419百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は112百万円(前年同四半期の親会社株主に帰属する四半期純損失は152百万円)と損失幅を縮小させることが出来ました。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメントの経営成績は以下のとおりであります。

## ①環境関連事業

環境関連事業は、主に当社及び株式会社エコ・テクノサービス(以下、「エコ・テクノサービス」という)にて展開しております。

当社は、エネルギー関連分野における再生可能エネルギー事業を主軸事業としており、主には太陽光発電所を保有し電力会社に対して売電する発電事業、S P C(合同会社への出資)を活用した太陽光発電運用会社への投資事業、稼働済太陽光発電所の転売事業、太陽光発電所用地の取得・販売、着工予定の未稼働太陽光発電所の権利と用地取得及び完工後に太陽光発電所の権利を運用会社等へ転売する売却事業、また太陽光電池モジュール及び周辺機器等太陽光発電商材の販売事業を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

エコ・テクノサービスは、当社が運営又は運用会社に売却あるいは賃貸する太陽光発電所において、稼働後20年間に亘り安定した発電事業を運営できるように、最新の技術と専門技術者によるオペレーションとメンテナンス及び障害対応事業を行うことをビジネスモデルとして展開しています。

当第2四半期連結累計期間においては、当社及び当社グループが保有し運営を行っている太陽光発電所6カ所の売電収入を売上高として計上しておりますが、電力会社による出力制御リスク等を考慮し、前連結会計年度に固定資産として保有していた自社保有発電所の一部売却による売電収入の減少などにより、環境関連事業の売上高は350百万円(前年同四半期比84.0%減)、セグメント損失(営業損失)は42百万円(前年同四半期営業損失20百万円)と大幅な減収減益となりました。

## ②S B Y事業

S B Y事業は、S B Yにて展開しております。

S B Yは、店舗展開を中心としたエンターテイメントショップの運営、並びにプロデュース、ディレクション、プロモーションや自社及び海外コスメブランドの取扱いによるビジネスアライアンスをビジネスモデルとして展開しています。エンターテイメントショップの運営においては、C2(13～19歳)及びF1(20～34歳)層の女性を主なターゲットとして日本を代表する流行最先端都市「渋谷」=S B Y(SHIBUYA)をブランドネームとし、その中核店舗は「アタラシモノ発見☆カフェ」をコンセプトにSHIBUYA109で運営しております。エンターテイメントショップは単なる店舗販売事業ではなく、最先端の情報が揃う店舗型の情報発信スペースであり、流行に敏感な女性の心を掴み、夢中にさせる総合エンターテイメントを追求することにより、S B Yから生まれた情報・商品がメディアや流通等のインフラに乗り、全国へ/世界へ発信されています。ビジネスアライアンスにおいては、独自に収集分析するトレンド情報を活用し、主にC2及びF1層の女性を主なターゲットとして事業を展開している企業を総合的にプロデュースするプラットフォームを提供するとともに、Diamond Lash(つけまつげ)を始めとする自社ブランド商品(Diamondシリーズ)の国内外への卸販売、また、海外新ブランドのコスメ雑貨の国内卸販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、2020年1月1日付でS B Yを第三者へ譲渡したことから、会計期間は2019年9月1日より2019年12月31日までの変則期間となりますが、S B Y事業の売上高は256百万円(前年第2四半期比42.5%減)、セグメント損失(営業損失)は12百万円(前年第2四半期は60百万円の損失)となり、損失幅は縮小いたしました。

## ③FATBURGER事業

FATBURGER事業は、GMFにて展開してしております。

GMFは、FATBURGER NORTHAMERICA, INC.との日本国内における出店ライセンス契約により、ロサンゼルス発祥の世界18ヶ国で150店を超える店舗展開中のバーガーブランド「FATBURGER」の国内運営をビジネスモデルとして展開してしております。国内1号店はMAGNET by SHIBUYA109にて2018年4月28日にオープンいたしました。

当第2四半期連結累計期間においては、2020年1月1日付でGMFを第三者へ譲渡したことから、会計期間は2019年9月1日より2019年12月31日までの変則期間となりますが、FATBURGER事業の売上高は29百万円（前年第2四半期比24.5%減）、セグメント損失（営業損失）は9百万円（前年第2四半期は26百万円の損失）となり、損失幅は縮小いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から187百万円縮小し、5,749百万円となりました。これは主に2020年2月13日に実施した第三者割当増資などに伴い現金及び預金が519百万円増加し、また、SBY、GMFが連結除外になったことなどに伴い、受取手形及び売掛金が399百万円、未収入金が1,152百万円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末から448百万円減少し、3,527百万円となりました。これは主に太陽光発電所の取得に伴い長期設備関係未払金が533百万円増加し、1年内返済予定の長期借入金が417百万円、未払法人税等が272百万円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末から261百万円増加し、2,221百万円となりました。これは主に2020年2月13日に実施した第三者割当増資に伴い資本金が186百万円、資本剰余金が174百万円増加したことによるものであります。

## &lt;キャッシュ・フローの状況&gt;

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、1,223百万円（前年同期比165.1%増）となりました。また、当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フロー状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間において、営業活動の結果使用した資金は1,270百万円（前年同期は248百万円の獲得）となりました。その要因は、主に売上債権の増減額306百万円、前渡金の増減額194百万円の増加要因と、たな卸資産の増減額919百万円、未払又は未収消費税等の増減額323百万円、法人税等の支払額278百万円の減少要因によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果得られた資金は1,178百万円（前年同期は722百万円の使用）となりました。その要因は、主に連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入1,035百万円、定期預金の払戻による収入100百万円の増加要因と、有形固定資産の取得による支出61百万円の減少要因によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間において、財務活動の結果得られた資金は700百万円（前年同期比90.6%増）となりました。その要因は、主にセールアンド割賦バック取引による収入636百万円、株式の発行による収入358百万円、短期借入金の増減額247百万円の増加要因と、長期借入金の返済による支出451百万円、配当金の支払額114百万円の減少要因によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結会計期間に当社が保有するSBYの全株式を第三者へ譲渡したことにより、SBY事業を行うSBY及びSBYの子会社（当社の連結子会社）であるFATBURGER事業を展開するGMFが当社の連結外へ異動しております。

今後は当社及びエコ・テクノサービスが行う環境関連事業を当社グループの基幹事業として収益力の向上に取り組んでまいります。さらに、既存事業とシナジーのある新たな事業を立ち上げ、堅実な成長戦略と新たな収益源を確保し、当社グループの成長と独自のポジショニングを確立・維持していくことを目指しております。

なお、連結業績予想につきましては、2020年1月28日に公表した業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	714,676	1,233,911
受取手形及び売掛金	508,729	109,243
商品及び製品	196,984	—
販売用不動産	—	3,004,019
仕掛販売用不動産	14,411	261,399
営業出資金	—	299,988
未収入金	1,192,114	40,109
短期貸付金	—	120,000
未収消費税等	59,051	194,180
その他	436,147	247,257
貸倒引当金	△203,462	△889
流動資産合計	2,918,652	5,509,219
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具	2,286,120	—
その他	163,523	38,816
有形固定資産合計	2,449,643	38,816
無形固定資産		
その他	11,926	3,515
無形固定資産合計	11,926	3,515
投資その他の資産		
長期未収入金	15,577	13,797
出資金	540	260
長期貸付金	—	20,000
関係会社出資金	299,878	—
敷金及び保証金	153,689	113,312
その他	89,540	50,302
貸倒引当金	△2,426	—
投資その他の資産合計	556,799	197,672
固定資産合計	3,018,369	240,003
資産合計	5,937,021	5,749,223
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	111,033	93,057
短期借入金	140,000	371,634
1年内返済予定の長期借入金	509,149	91,734
未払金	188,420	17,475
前受金	24,033	9,001
未払法人税等	278,589	6,333
設備関係未払金	135,007	145,583
移転費用引当金	38,500	12,364
その他	231,650	36,076
流動負債合計	1,656,385	783,260

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2019年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年2月29日)
<b>固定負債</b>		
長期借入金	628,907	580,691
長期未払金	32,124	30,400
長期前受収益	11,868	24,764
資産除去債務	39,173	39,199
長期設備関係未払金	1,473,647	2,007,164
繰延税金負債	2,476	12,336
その他	132,157	50,000
<b>固定負債合計</b>	<b>2,320,354</b>	<b>2,744,555</b>
負債合計	3,976,739	3,527,816
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	876,257	1,062,957
資本剰余金	497,562	672,222
利益剰余金	935,676	707,424
自己株式	△349,214	△221,197
<b>株主資本合計</b>	<b>1,960,282</b>	<b>2,221,407</b>
純資産合計	1,960,282	2,221,407
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,937,021</b>	<b>5,749,223</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
売上高	2,673,645	635,282
売上原価	2,433,037	504,377
売上総利益	240,607	130,905
販売費及び一般管理費	568,332	359,525
営業損失(△)	△327,724	△228,620
営業外収益		
受取利息	2	371
貸倒引当金戻入額	21,077	200,000
償却債権取立益	350	190
その他	4,997	884
営業外収益合計	26,427	201,446
営業外費用		
支払利息	103,113	36,990
支払手数料	13,237	23,320
その他	2,037	1,051
営業外費用合計	118,388	61,362
経常損失(△)	△419,686	△88,537
特別利益		
受取和解金	100,000	—
関係会社出資金売却益	128,466	—
関係会社株式売却益	3,829	24,855
その他	19,607	—
特別利益合計	251,903	24,855
特別損失		
店舗閉鎖損失	6,264	—
事務所移転費用	1,504	—
固定資産売却損	—	2,952
固定資産除却損	—	93
特別損失合計	7,769	3,046
税金等調整前四半期純損失(△)	△175,551	△66,728
法人税等	△23,205	1,015
法人税等調整額	—	45,117
四半期純損失(△)	△152,346	△112,862
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△152,346	△112,862



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
四半期純損失(△)	△152,346	△112,862
四半期包括利益	△152,346	△112,862
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△152,346	△112,862
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△175,551	△66,728
減価償却費	201,108	99,161
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△20,903	△200,000
株式報酬費用	23,925	11,841
受取利息	△2	△371
支払利息	103,113	36,990
固定資産売却損益(△は益)	△19,607	2,952
固定資産除却損	—	93
関係会社株式売却損益(△は益)	△3,829	△24,855
関係会社出資金売却損益(△は益)	△128,466	—
受取和解金	△100,000	—
支払手数料	13,237	23,320
売上債権の増減額(△は増加)	644,727	306,418
たな卸資産の増減額(△は増加)	△32,584	△919,974
前払費用の増減額(△は増加)	△13,012	△3,070
未収入金の増減額(△は増加)	13,082	9,912
前渡金の増減額(△は増加)	1,210,494	194,456
仮払金の増減額(△は増加)	△679	1,027
仕入債務の増減額(△は減少)	△9,260	77,918
未払金の増減額(△は減少)	△5,932	△156,585
前受金の増減額(△は減少)	△1,071,885	△1,693
未払又は未収消費税等の増減額	△259,831	△323,810
その他	45,248	△23,323
小計	413,389	△956,319
利息の受取額	2	279
利息の支払額	△101,479	△36,499
和解金の受取額	100,000	—
移転費用の支払額	△1,504	—
法人税等の支払額	△162,378	△278,201
営業活動によるキャッシュ・フロー	248,028	△1,270,741

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2019年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年9月1日 至 2020年2月29日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△101	△10,300
定期預金の払戻による収入	—	100,000
関係会社出資金の売却による収入	292,668	—
有形固定資産の取得による支出	△1,235,376	△61,054
有形固定資産の売却による収入	400,000	3,214
無形固定資産の取得による支出	△1,162	△5,500
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△171,658	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	2,054	1,035,307
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△11,256
貸付金の回収による収入	—	60,000
敷金及び保証金の差入による支出	△11,037	△13,415
敷金及び保証金の回収による収入	2,237	81,853
その他	△10	100
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△722,385</b>	<b>1,178,949</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額(△は減少)	△449,998	247,634
長期借入金の返済による支出	△100,337	△451,485
借入手数料の支払額	—	△20,000
セールアンド割賦バック取引による収入	1,361,900	636,830
割賦債務の返済による支出	△224,995	△75,933
リース債務の返済による支出	△996	△689
クラウドファンディング預り金の増減額(△は減少)	△3,665	△7,870
配当金の支払額	△214,418	△114,041
株式の発行による収入	—	358,306
自己株式の処分による収入	—	128,650
自己株式の取得による支出	—	△672
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>367,489</b>	<b>700,727</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△0</b>	<b>0</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△106,866	608,934
現金及び現金同等物の期首残高	568,215	614,275
現金及び現金同等物の四半期末残高	461,348	1,223,210

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月28日 定時株主総会	普通株式	115,283	8	2019年8月31日	2019年11月29日	利益剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は2020年2月13日付で、エコ・キャピタル合同会社から第三者割当増資の払込みを受けました。これにより、当第2四半期連結累計期間において、資本金が186,700千円、資本準備金が174,658千円増加し、自己株式が128,641千円減少いたしました。

これらの結果により、第2四半期連結会計期間末において、資本金が1,062,957千円、資本準備金が272,206千円、自己株式が221,197千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

## 税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に見積実効税率を乗じております。

但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I. 前第2四半期連結累計期間(自2018年9月1日至2019年2月28日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	環境関連 事業	SBY事業	FATBURGER 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	2,190,105	444,888	38,651	2,673,645	—	2,673,645
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	124	—	124	△124	—
計	2,190,105	445,013	38,651	2,673,770	△124	2,673,645
セグメント損失(△)	△20,552	△60,763	△26,137	△107,453	△220,271	△327,724

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△220,271千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△220,271千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれん金額の重要な変動)

「環境関連事業」セグメントにおいて、永九能源株式会社の発行済株式の全部を取得したことに伴い、同社を連結の範囲に含めました。当該事象により、のれんが715,621千円増加しております。

なお、当該のれんは、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しに反映された後の金額より開示しております。

## II. 当第2四半期連結累計期間(自2019年9月1日至2020年2月29日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	環境関連 事業	SBY事業	FATBURGER 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	350,076	256,029	29,176	635,282	—	635,282
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	350,076	256,029	29,176	635,282	—	635,282
セグメント損失(△)	△42,204	△12,380	△9,636	△64,221	△164,399	△228,620

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△164,399千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△164,399千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。その概要は、以下のとおりです。

当社グループは、当第2四半期連結会計期間中の2020年1月1日に「SBY事業」及び「FATBURGER事業」を構成していた連結子会社である株式会社SBYの全株式を譲渡し、同日より同社及び同社の子会社である株式会社Green Micro Factoryを連結の範囲から除外しております。

この結果、「SBY事業」及び「FATBURGER事業」に伴うセグメント資産の金額はなくなっております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。